

## 「学校」という場における教育と福祉の実践・理論の関連付け

### ースクールソーシャルワークをどのように位置づけるのかー

神戸常盤大学短期大学部幼児教育学科 野尻 紀恵 (006653)

キーワード：福祉教育、教育福祉、スクールソーシャルワーク

#### 1. 研究目的

埼玉県所沢市で始まったとされる日本におけるスクールソーシャルワーク（以降 **SSW** とする）は、その後兵庫県赤穂市や香川県、大阪府などで実践されてきた。そして 2008 年度にはスクールソーシャルワーカー（以降 **SSWer** とする）活用事業に 15 億円の予算が計上され、全国 141 地域で新たに **SSW** が実践された。しかし、日本では **SSW** の歴史は浅い。

そこで本研究では、戦後から現在の「学校」における教育と福祉の実践・理論を整理し、そこでの **SSW** 実践の立ち位置を考察することで、日本における現在の **SSW** の位置づけを明確にすることを目的とする。

#### 2. 研究の視点および方法

子どもの抱える生活課題が、学校教育にとっても大きな問題となっている。その背景には、貧困や生活格差の問題（青木 2003；西田 2005；山野 2006）、子どもに関心が向けられない家族の実態（岩田 2003；山野 2003）というような、親の生活実態の困難さが存在する。よって、教育が抱える問題は実は福祉の問題であり、教育と福祉の統合が不可欠であるといえる。

小川（1985）によれば、現代の教育福祉論は、「現代社会における教育福祉問題を前提としている。前提としての教育福祉問題を基底的に規定しているものは現代の貧困問題、とくに教育における現代の貧困問題にほかならない<sup>1)</sup>」。背景には、社会の崩壊、地域社会や家庭、親子関係にまで及ぶ人間関係の疎外、等がある。よって、それらの実態に対する教育福祉のあり方は、実践的な課題であるといえる。小川は、「基本的に重要なことは、児童の生活と教育の問題を全面的にとらえること、そのために『学校と児童の家庭と地域との間に適切な処置を確保する責任』（シーボーム・レポート）が国と地方自治体、とくに自治体にあるということである。」<sup>2)</sup>としている。これらによれば、教育福祉の課題は、子どもの現実についてリアルに捉えることであるといえる。

そのような学校現場に入り、福祉的アプローチを試みているのが **SSWer** である。生徒の抱える問題は、基本的には生活課題であるからだ。

さて、ソーシャルワークは、人とその成長に対する全体的なアプローチ、生活体験の場での成長の可能性に力点を置くことなどに焦点を当ててきた。**SSWer** も、ソーシャルワークの、特に人間の成長に役立つような環境の整備という目的を持つことができると考え

られる。つまり、学校や地域等、メゾシステムが影響を及ぼす場に焦点を当てた活動は、広範囲にわたる効果があり、システム全体にわたる反応を呼び起こすことができると思われる。

そこで、SSW 実践が日本の「学校」に根付くためにも、時代背景とともに、「学校」においてどのような「教育」と「福祉」の重なりが見られ、どのような実践がなされ、またどのような理論が展開されてきたのかを改めて整理する必要があると考える。SSW はその歴史的な実践のどのような部分に関連し、どのようなところを補完し得るのか考察することが重要である。そして、SSW の立ち位置を明確にすることは意義があると考えられる。

#### 【研究方法】

- ① 教育と福祉の重なり合いについて、実践と理論を文献整理し、関連付ける。
- ② 日本における SSW の文献を整理する。
- ③ 日本における SSW 実践例をリサーチし、整理する。
- ④ ①②③を関連付け、SSW の位置づけを明確にする。

### 3. 倫理的配慮

研究倫理指針にのっとり、実践地域や個人情報については守秘義務を守ること、研究目的以外には使用しないこと、記述にあたっては地域や個人が特定されないように十分に注意すること、を文章で説明し理解を得た上で、SSW 実践例のリサーチを行う。

### 4. 研究結果

次にあげる3つの視点による研究結果を構造化し、図に表現することができた。

(詳しい資料・構造化図は当日配布)

#### (1) 「学校」のとらえ方

日本における「学校」のとらえ方には特徴がある。

「学校」および教員には、そもそも福祉的役割が期待されている。またそれを担ってきた歴史がある。

#### (2) 児童福祉法との関連

「すべての子ども」が対象

教育福祉の理論を発展させることの意義

#### (3) 福祉教育と SSW の重なりと補完性

実践のあり方から見えたもの

#### 【引用文献】

- 1) 小川利夫 (1985) 『教育福祉の基本問題』 勁草書房 p168
- 2) 上掲書 p169